

愛ことば

～安倉中愛 友よ～

宝塚市立安倉中学校
校長だより
2023(令和5)年
4月20日(木)
第3号

何かやりはじめますか？

「西から昇ったお日様が、東へ沈む？」～全校集会で伝えたかったこと～

本日、全校集会を行いました。今年度初めての全校集会でした。集合から退出までとても立派な集会でした。教頭先生からは最後に「感動しました。」と皆さんへお話ししていただくほどでした。これから1年間どうぞよろしくお願いいたします。

私からは、以下のようなお話をさせていただきました。

今日紹介するのは「これでいいのだ。」が口癖の漫画のキャラクター『天才バカボンのパパ』の言葉です。それは、「西から昇ったお日様が東へ～沈む～♪」というものです。もちろんこの言葉は一般的ではありません。理科の先生に聞けば「間違っています。」と叱られてしまいそうです。(そんな頭ごなしに叱る先生は、安倉中にはいませんが…)現代の地球に住む私たちは、「太陽は、東から昇って西に沈む」のが当たり前です。だから、ばかばかしいありえないことという感じでこんな台詞がアニメ「天才バカボン」の主題歌にもなっています。

ところが、本当にそうでしょうか？皆さんには色々なことを初めから決めつけたりせずに、無理そうなことでも挑戦したり、疑問を持ったり、自分で確かめたりという姿勢を持って欲しいと思っています。

実は、このバカボンのパパが言ったとおりのことを実際に見た人がいました。元全日空パイロットの山形和行さんです。(右写真)「操縦席から一度だけ西から昇ったお日様を見た！」ということです。よくよく考えてみると実際に太陽が地球の周りを回っているのではなくて、地球自体が回っている(自転している)から太陽が東から昇って西に沈むように見えるだけということだけが真理なのです。ということは、地球が今とは反対向きに自転すると太陽は、「西から昇って東に沈むように見える」のです。



実際に地球が今の向きと反対に自転することはないですが、例えば地球の自転よりも早く逆向きに回ると(空を飛ぶと)太陽は反対向きに、つまり西から昇って東に沈むように見えることになります。これもまた、真理です。太陽が回っているのではなく地球が回っていることが真理なのです。

山形機長は、一度だけ太陽が西から昇ったように見える瞬間を味わったということですよ。山形機長は、『常識と違うことをしようとする周りの人は「そんなことできない!」ということが多いですが、この話のように「きっとできることがあるはずだ!」「決してあきらめるな!」という気持ちを大切にしてほしい』と書かれていました。

安倉中の皆さんもどんなことでも決して自分にはできないと簡単に決めつけたりせずに、色々なことにチャレンジしてみたいと思います。また、少しでも疑問に感じることはしっかりと自分で確かめる姿勢を持ってほしいと思います。それが、安倉中での中学生生活を充実させることにもつながり、これからの未来につながっていくものと思います。・・・以上今月のお話でした。

もう気付いた2・3年生の人は多いと思います。ここまでの話は、今年の全校集会（放送での集会でしたが）でもお話しさせていただいたものです。今年は、さらにバージョンアップします。もっと常識を疑いましょう。

「まだまだ、決してあきらめるな！」ということです。

「北ってどっち？」を知りたい時には一般的には、方位磁石を使いますが、実は、その方位磁石が指す北は正確な北（真北）ではありません。場所や時間（時代）によっても異なりますが、現在の宝塚だと約7度ずれています。さらに、同じ日本でも北海道の宗谷地方では、約11度ずれているようです。ということは、北とか西や東というものも磁石では正確にわかりづらいことになります。

もう少し付け加えると、N極とS極の指す方向がずれるだけでなく逆転することも過去の360万年間（ピンときませんが）には11回もあったそうです。南北の逆転です。「西から昇ったお日様が東に沈む」のが当たり前だった時もあるということです。

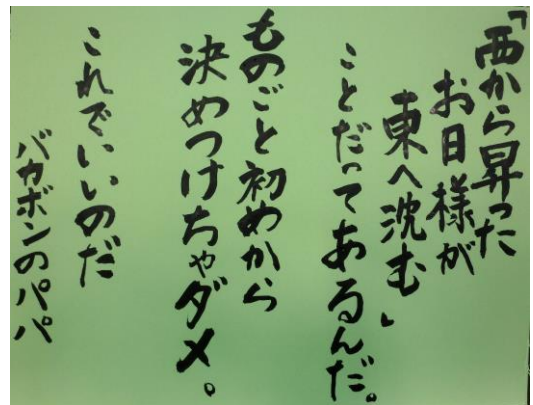
何でも常識と思われることを疑ったり、自分自身で（無理だと）決めつけたりしないことも大切ですね。

この話を4月に改めてさせてもらったのには、もう一つ意味があります。皆さんは学習指導要領という法令に基づいて毎日の学習をしていますが、その中で先生たちが今、一番大切にしていることが「主体的・対話的で深い学び」という考えです。皆さんには、他の人との交流を通じて自分から進んで「どんどん学ぶ」姿勢を育ててほしいのです。少し違う視点から調べたり他の人の考えに触れたりすることで学ぶ意欲をどんどん育ててほしいのです。

「次の授業は何を教えてもらえるのかな。」「ちょっと自分で調べてみようかな。」「あの子はどんな考えなのかな。」などいつも何かにわくわくしながら学習に取り組めるときっと自分の力となっていくに違いありません。

今回のバカボンのパパの話から南北の逆転までつながることなどは「深い学び」と言えます。こんな風に自分でどんどん興味を持つと勉強も楽しいものになるはず。「深い」と言ってももっとも深くって楽し～くなるはず。是非みんなががんばっていきましょう。

それでは最後に・・・ これでもいいのだ！



© 藤原 二夫